

ニコライ・サラトフスキー

ロシア北部ペトロザヴォーツクで音楽一家の家庭に生まれる。6歳で音楽を学び始め、9歳のときに初めてソロコンサートを開き、オーケストラとも共演している。才能を見出され、モスクワ音楽院附属中央音楽学校に入学。スタニスラフ・ブーニンやディーナ・ヨッフエ、ラドゥ・ルプーらを育てた名教師エレナ・リヒテルのもとで学ぶようになる。2001年ロシア教育省より奨学金を授与され、2002年にはロシア大統領よりそれまでの音楽活動について表彰される。

2005年に開催されたモスクワ音楽院附属中央音楽学校主催の国際ピアノコンクールでは決勝の様子がロシアのテレビ局、テレカナル・クリトゥーラによって中継され、満場一致で優勝を果たした。国際コンクールでの受賞は10にのぼる。

2008年アメリカ合衆国・カリフォルニア州サンタバーバラにおいて、6月から8月の2ヶ月間開校する"Music Academy of the West"に、奨学金を全額給付され参加、ジェローム・ロヴェンタールに師事する。その後、米国ジュリアード音楽院に特待生として招待される。2010年最優秀でモスクワ音楽院を卒業。同年、首席で同音楽院大学院に入学する。

日本においては、2006年、浜松国際ピアノコンクールでファイナリストとなったのを機に、翌年東京・所沢・名古屋にてリサイタルを催し絶賛を博す。2012年、第31回横浜市招待国際ピアノ演奏会に出演。音楽関係者からも高い評価を得た。2014年には横浜みなとみらい大ホールにて、子どものためのピアノワークショップの講師を務め、また横浜市のアウトリーチ事業では横浜市内の小中学校を訪問しレクチャーコンサートを行った。

室内楽では2013年よりロシア人ヴァイオリニスト、アリョーナ・バーエワとパートナーを組み、主にヨーロッパで演奏活動を行っている。また最近は新しいプロジェクトとして、兄でピアニストのセルゲイ・サラトフスキーとデュオを組み、ロシア、カナダでコンサートツアーを行った。

これまでにモスクワ音楽院大ホールをはじめ、フランス、イタリア、スペイン、ポルトガル、ルクセンブルグ、ベルギー、イギリス、ノルウェー、アメリカ、カナダ、南

アフリカ共和国、コンゴ共和国、バングラデシュ、ベラルーシ、カザフスタン、台湾、日本の主要ホールで演奏を行っており、モスクワ国立交響楽団、ロシア・ナショナル管弦楽団、マリンスキー劇場管弦楽団、サンクトペテルブルク国立交響楽団、ヤロスラブリ・フィルハーモニー管弦楽団、トリヤッチ・フィルハーモニー管弦楽団、マドリード管弦楽団、ガルシア交響楽団、東京交響楽団等、オーケストラとの共演でも評価を得ている。

2015年、ベルギー（ブリュッセル）に本拠地を置く International Certificate for Piano Artists の会員に選ばれ、ネルソン・デルヴィーニュ・ファブリ、フィリップ・アントルモン、ジェローム・ロヴェンタール、ミシェル・ベロフらとも世界各国で活動を共にしている。

2016年、Roland France から チャイコフスキーの「ドゥムカ」、シューマン＝リストの「献上」などを収めたCDをリリース。2016年、国立台北教育大学の客員教授に迎えられ、ロシア、アメリカ、カナダでもマスタークラスの指導にあたっている。特に日本とロシア間の文化交流事業として「日露交流ピアノ・マスタークラス」はシリーズ化され、日本語、ロシア語、英語の3ヶ国語で動画が世界中にインターネット配信されている。

2017年、ロシア・ウリヤノフスクで作家ミハイル・ブルガーコフの作品『巨匠とマルガリータ』の交響詩（アレクサンドル・ソイニコフ作曲）が世界初演される予定で、そこでヴォランド役での俳優デビューが決まっている。